Media Information

令和２年１１月３０日　神戸新聞

ケアハウス　清華苑シルバーライフが取り組んでいる
シトラスリボンプロジェクトの様子が掲載されました。

神　戸　新　聞　（第３種郵便物認可）

思いやり訴えるリボン

コロナ感染者らへの風評被害根絶を

大久保の老人ホーム 高齢者手作り

玄関ロビーなどに掲示

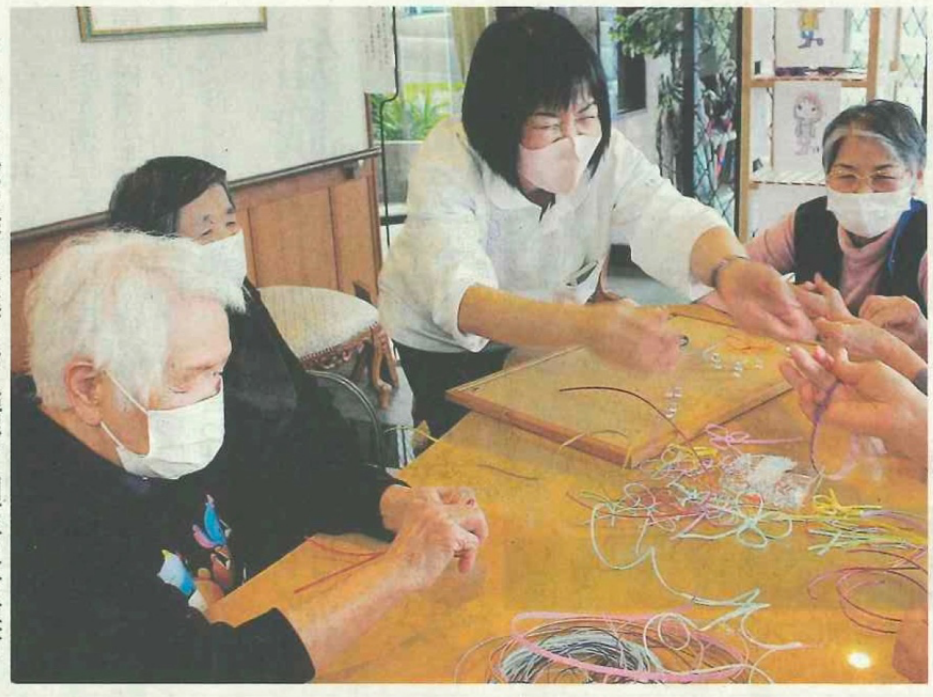
新型コロナウイルスの感染者、医療関係者への偏見や差別のない社会を目指す「シトラスリボンプロジェクト」に、明石市大久保町大窪の軽費老人ホーム「清華苑シルバーライフ」の入居者が取り組んでいる。感染のリスクにさらされる中、互いに思いやる大切さをいま一度見つめてほしい―。そんな願いとともに一つ一つのリボンを結ぶ。（長沢伸一）

たとえ感染が確認されても受け入れられる雰囲気をつくり、安心して暮らせるまちを目指そうと、愛媛県の有志が始めたプロジェクト。リボンの三つの輪は地域、家庭、学校・職場を意味し、玄関に掲示したり、「元気ですか」などの声掛けとともに贈り合ったりしているという。

同施設を運営する三幸福祉会の職員が新聞記事で知り、活動の趣旨に共鳴。手先が不自由な高齢者でも結びやすい素材のひもを選び、入居者に呼び掛けて今月21日からリボン作りを始めた。これまで延べ９人が参加。職員に教わりながら約40個の輪を結んだ。

出来上がったリボンは施設入り口のロビーに掲示。自室の入り口に飾り、空いた時間に自主的に作るなど施設内にリボンの輪が広がっているという。活動に参加した女性(78)は「誰もがコロナになる可能性がある。大変な思いで入院生活を送った人や医療従事者を温かく迎えたい」と話す。

同ホーム生活相談員の村上卓也さん(44)は「重症化リスクが高いとされる高齢者が風評被害をなくそうと願う気持ちを受け止めたい。三つの輪の結束の大切さを知ってほしい」と訴える。同施設では今後も定期的にリボン作りを続けていくという。



シトラスリボン作りを楽しむ入居者＝明石市大久保町大窪（三幸福祉会提供）

Seikaen.jp